

●制作

風景蘇生術

—戸山公園および戸山ハイツの教育コモンズとしての再編—

戸梶 工

園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム（主指導教員：武田 史朗）

TOKAJI Takumi

1. 研究の背景と目的

今日の日本の都市空間は、多くの課題が急速に深刻化している。東京の高齢化率は、2024 年に 23.5%¹⁾と過去最高を記録し、気候変動による豪雨によって都市型水害が増加することが予想されている。都市空間に大きな転換が迫っている中で、公園緑地などのオープンスペースのあり方は、より一層重要性を増すと考えられる。そこで、本設計では、明治時代以降、数多く計画された東京の緑地計画に着目した。これらの緑地計画は、ほとんどが、財政上の課題や、戦争、急速な都市化などのために実現されなかったか、または大幅に縮小された。²⁾東京の大規模緑地は、古くから守られてきたものも多くある一方、戦争や市街化によって失われてきた緑地もある。本設計では、そのような緑地の一つとして、東京都新宿区戸山に着目し、都市の骨格としての緑地の実現のための第一歩となるような空間提案を行なっていく。

2. 方法

戸山地区の歴史や現況、東京都の明治期以降の緑地計画などの文献調査を行い、その結果の分析、対象地が、公園、緑地としての機能を、様々な要因によって果たし得なかったという歴史的経緯を明らかにする。さらに周辺地域の特性や都営団地の人口構造についても調査し、そして、その結果の分析から見出される、この場所に本来求められていたと考える機能を新しい形で再生的に挿入し、周辺の人々が集まり、交流し合える場となるように、設計提案を行う。

3. 対象地と調査・分析の結果

本設計対象地は、東京都新宿区都営団地である戸山ハイツの一部、都立戸山公園および戸山3丁目の住宅街である。

(1) 本来持つべき対象地の緑地としての機能

対象地は、かつて、尾張徳川家の下屋敷庭園として江戸で最も大きな庭園であった。江戸時代以降、対象地は、東京の広域緑地計画である、後藤新平による「帝都復興計画」³⁾、「東京緑地計画」および「戦災復興計画」の中で大規模緑地として計画されてきたが、いずれも実現には至らなかった。実際には、明治時代以降は陸軍戸山学校や都営団地である戸山ハイツとして開発され、緑地としての機能を失ってきたのが場所の歴史である。以上から対象地を大規模緑地として再生することは、東京における緑地帯を形成するための重要な鍵の一つであることが分かる。また、対象地が持っていた特

徴として最も大きなものに水との関わりが挙げられる。対象地には、かつて尾張徳川家の下屋敷である戸山荘の巨大な池⁴⁾と大久保の窪地を作り出したと言われる蟹川⁵⁾が存在し、かつてから水との関わりが強かった場所であり、現在も地形に水の痕跡が残り、公園内には、水辺が作られている。

(2) 対象地の課題と周辺環境との関係

まず、対象地の一部である都営戸山ハイツの65歳以上の高齢者割合は、2014年時点で、62.1%と「限界集落」のような高さである⁶⁾。周辺都市空間の人口構造とは、大幅に異なる構造をしており、いわば都市から切り離された場所であるため、早急な対策が必要と考える。また、戸山3丁目の住宅地は、都市公園区域として都市計画決定され、戸山公園の一部としての整備が予定されており、実際に飛地公園が点在している。また、戸山公園や戸山ハイツは谷底に位置し、明治通りと高低差があるため、周囲から視覚的に切り離され、そこに大規模な緑地があることが隠されてしまっている。

周辺には、早稲田大学、都立戸山高校などの研究教育施設や新宿、高田馬場などの商業地域が多数ある中、その中間点に位置し、南北に長い大きな緑道のような形状のため、多様な場所同士を繋ぐ立地的なポテンシャルを持っている。さらに、対象地は、新宿御苑、神田川、明治神宮などの大規模緑地の連なりの一部に位置しており、緑のネットワークを形成する上で重要な土地である。

4. 提案の方向性

以上から対象地の緑地としての機能の不足、周辺環境との関係から考えられる対象地のポテンシャルを見出すことができた。そこで、周辺市街地に対して閉じられ、裏側となってしまった風景を、多くの人々、動植物が集まる風景に蘇生させるために、以下3つの手法を用いる

① 100年残る軸を新しい都市軸として再編する

② かつての水辺を復活させ、水軸とする

③ 周辺の属性を溶け合わせる教育・交流拠点を整備する
これらの手法によって、対象地を多くの人々や動植物の集まる都市の骨格となる場所として再編していくようなデザインを提案する。

5. 引用文献

- (1)「敬老の日になんだ東京都の高齢者人口（推計）」（令和6年）
- (2)東京都都市整備局 東京の都市作りの歩み 2章都市計画制度の進展 一震災・戦災からの復興—
- (3)内閣府 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書1923 関東大震災【第3編】第1章

都復興の展開 (平成 21 年 3 月)

(4) フィールドミュージアムガイド戸山公園 尾張戸山荘今昔

(5) 東京 23 区凸凹地図 昭文社(2020)

(6) 「1970 年代の再生 (建替え) 後、約 40 年を経た都内の団地の原点ともいえる戸山ハイムの現状と今後の展望に関する調査研究」 著者公益財団法人アーバンハウジング/編(2014 年)

